

これを極めれば勝てる！

FX 大衆心理入門

著作権について

本レポート「これを極めれば勝てる！FX 大衆心理入門」(以下、本レポート)は、著作権法で保護される著作物です。取り扱いについては以下の点にご注意ください。

本レポートの著作権は、宮崎結城にあります。

著作権者の書面による事前許可なく、本レポートの一部又は全部をあらゆるデータ蓄積手段(紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等)により、複製、流用、及び転載、オークションなどでの転売をすることを禁じます。著作権侵害を行った場合は、5年以下の懲役または500万円以下の罰金に処せられます。(著作権法119条)

著作権法に違反した場合は、流出源が特定できるようになっておりますので、十分ご注意ください。

使用許諾契約書

本契約は、本レポートを入手した個人・法人(以下、甲とする)と著作権者(以下、乙とする)との間で合意した契約です。

本レポートを甲が受け取り、開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条(契約の目的)

乙が著作権を有する本レポートに含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条(禁止事項)

本レポートに含まれる情報は著作権法によって保護されています。

甲は本冊子から得た情報の一部または全部を、乙の書面による事前許可を得ずして一般公開(紙媒体、電子媒体、映像媒体、音声等)することを禁じます。

また公開には出版、講演、電子メール、ツイッター、SNSホームページ、ブログ等での公開も含まれるものとします。

特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。

第3条(損害賠償・違約金)

甲が本契約第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対する違約金として10万円と違反件数を乗じた金額を支払うものとします。また、インターネットでの公開等(ファイル共有サイト含む)により違反件数が特定できない場合、甲は乙へ対して一律500万円を支払うものとします。

第4条(契約の解除)

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約を解除することができるものとします。

第5条(責任の範囲)

本レポートから得た情報の使用による一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じた場合でも乙は一切の責任を負いません。

免責事項

本レポートは情報提供を唯一の目的としたものであり、収益の保証、或いは、直接的に投資助言業務、投資勧誘を行うものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定は、リスク等を熟知した上、ご自身で判断されますようお願いいたします。本レポートの利用、あるいは取引により利用者に生じたいかなる損害についても著者はそれに対し、一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

はじめに

あなたは FX で安定して勝つために最も必要なことは何だと思いますか？

私が考える最も必要なことは”**人間の心理状態を読み解くこと**”です。

なぜなら連続したローソク足が作り出すチャートは相場参加者の心理が作り出しているからです。

では、参加者の心理を読み解く為には何が一番わかりやすいと思いますか？

移動平均線、RSI、MACD などのインジケーターでしょうか？

インジケーターも過去の値動きから様々な計算式を使って数値を出しているので、

心理を読み解いていると言って良いと思います。

ただし、インジケーターとは本来は補足的に使うものであって、それだけではどうしてもエントリーが遅れてしまいます。

私が考える一番わかりやすく、簡単な方法が**ローソク足から相場参加者の心理を読み解く方法**です。

あなたもご存知の通り、ローソク足は相場参加者全てが、

値動きの強弱を判断する基準にしていると言っても過言ではありません。

ですからローソク足から参加者の心理つまり”**大衆心理**”を読み解く事ができれば、

エントリーに遅れることなく、損失を最小限に抑え、利益を最大限に伸ばすことができるのです。

この大衆心理を読み解くことこそが、FX で安定して勝つために必要なことだと私は考えています。

それでは早速大衆心理について解説していきたいと思います。

大衆心理の基本的な読み方

それでは早速、大衆心理の読み方に入っていきますが、
そもそもローソク足からどうやって大衆心理を読み解くの？
という話になってくるとお思いますので、まずは以下の画像をご覧ください。



上記画像の**赤丸**の箇所。

ここではどんな大衆心理が働いているかわかりますか？

まず、**赤ライン**を見ると、**緑マル**で二度、止められている為、
レジスタンスされている箇所とわかります。

では、もう一步踏み込んで、
大衆心理の面から見ると何故ここで反落したかわかりますか？
買った人、売った人の気持ちを考えるとわかると思います。

最初に赤ラインですが緑マルで2度ほど抑えられています。
その為、売った人、買った人からすると、
ここが反応する大きな目安となります。

これを踏まえた上で、
まず買っている人の心理を考えてみます。

例えば、上記画像の**青丸**から買っていたとしたら、
その人達の利食いの目安は赤ライン付近になります。

そして予想通り赤ラインに到達したら、
「レジスタンスラインに来たし、ここで反落するかもしれないから一旦もらっておこう」
となり利食いが入ってきます。

次に売りたい人の立場から考えると、
緑マルで2度反落しているのに、「赤ライン付近まで来たら売りたい」と考える人が多いです。
その為、予想通り赤ラインまで到達したら逆張りで売りエントリーをしてきます。

よって赤ラインで反落する理由は**買いの利食いと逆張りの売りが入るから**です。
しかも赤ラインを起点にして、一気に下落していますが、
これは下落するにつれて買っていた人が、

「あ、ヤバイ下がってきたから利食い(建値撤退、損切り)しなきゃ！」

と焦って一斉に決済しているのに加えて、
下落が加速することで売りたい人が、

「あ、やっぱり下だ！じゃあ、売ろう！」

と判断してどんどん売ってきます。

この二つの思惑が合わさった為、下落の勢いが加速して逆V字のようになったのです。



これが基本的な大衆心理の読み方になります。

このように買いと売りの心理状態を考えれば、
なぜサポレジで反応するのか？
という事が理解できると思います。

相場参加者の心理と言うのは、
サポレジで特に顕著になるので、
まずはサポレジ付近の大衆心理を理解する事から始めると、
トレードの精度を上げることができるでしょう。

FX でなかなか結果が出ていないトレーダーの多くが、
この大衆心理を理解せずに、

「レジスタンスラインに来たから売り」
「サポートラインに来たから買い」

と単純に判断して売り買いしていますが、

「なぜそこで反応するのか？」

というのをしっかり考えてエントリーする事で、
トレードの質が上がって、安定させることができます。

* サポートライン付近の値動きは
売り買いを逆にただけで仕組みは全く同じになります。

ローソク足を読むときは決めつけろ！

ローソク足を読むコツとして、上に行くか下に行くかを決め付けてしまう事も意外に重要です。

ただし、エントリー時に「これは絶対に上へ行くから買いだ！」

などと**根拠もなく決め付けて**エントリーするのは全く違うので、そこは意味を履き違えないで下さいね。

あくまでしっかりした根拠でローソク足を読み解く場合に限って決め付けが有効というだけです。

では、「決めつけろ！」とはどういう事かという、

「これだけ下がっているのだからいい加減反発するだろう」

「こんなに上ヒゲが出ているのだからいい加減下がるだろう」

といったように、ローソク足の足組みを見て、どっちに行くのか決め付けてしまうのです。

そうすると一方向に目線が定まるので、変に売りだ！買いだ！と迷わなくて済みます。

例えば、あなたが今、下記画像の右端でチャートを見ているとしましょう。



このような時に、

「売りの起点となった場所を上抜けて戻ってきたけど、
今度はそこがサポートになって下ヒゲを何本も出して下に行かない。
しかも安値も切り上げているからそろそろ**上に行く”はず”**」

と決め付けてしまうのです。

こうする事で変に「上だ！ 下だ！」と迷うことなくチャートを見ることができます。



では、その後の動きがどうなったかを見てみましょう。



やはり上に行っていますね。

上昇する流れとしては、

- ・売りの起点を上抜ける事で、売っている人達がもう「ダメかも」と考え出す
- ・それによってレジサポ転換の法則で、今度は売りの起点がサポートに変わる
- ・そのサポートで下ヒゲを連発する事で、売っている人達が本格的に諦めて決済してくる
- ・それに加えてトレンド転換の買いを狙う人達が新規買いを入れてくる

よって、

- ・売っている人達の決済(売りポジションの決済だから買い)
- ・トレンド転換を狙った新規買い

この2つの買いが入ることで、**ダブルの買いパワー**となり、一気に上昇しているのです。



このように根拠がしっかりある場合は、ある程度方向を決め付けてローソク足を見ると、流れを読みやすくなります。

特にこの方法は、サポレジ付近でエントリーする際に使うと、迷いを減らすことができます。

もちろん、エントリー後に逆行されて損切になることはありますが、「せっかくエントリーチャンスなのに迷ってエントリーできなかった」といったことを防ぐことができます。

実際に私もエントリー時にはこの方法を使うことがほとんどです。

ただし、何度も言いますが、**ちゃんとした根拠があるからこそ**決め付けて良いのです。適当に「上に行くはず！」と決め付けてしまうことは単なるギャンブルになるので注意してください。

ローソク足を逆手にとって読む

これは先程の「ローソク足を読むときは決め付けろ！」の応用編になります。

先程は、根拠がある時に「ローソク足が次にどの方向に行くか決め付けると流れを読みやすくなる」と書きましたが、今度はそれを逆手にとってエントリーや相場の流れを読んでいく方法になります。

例えば下記のチャートをご覧ください。

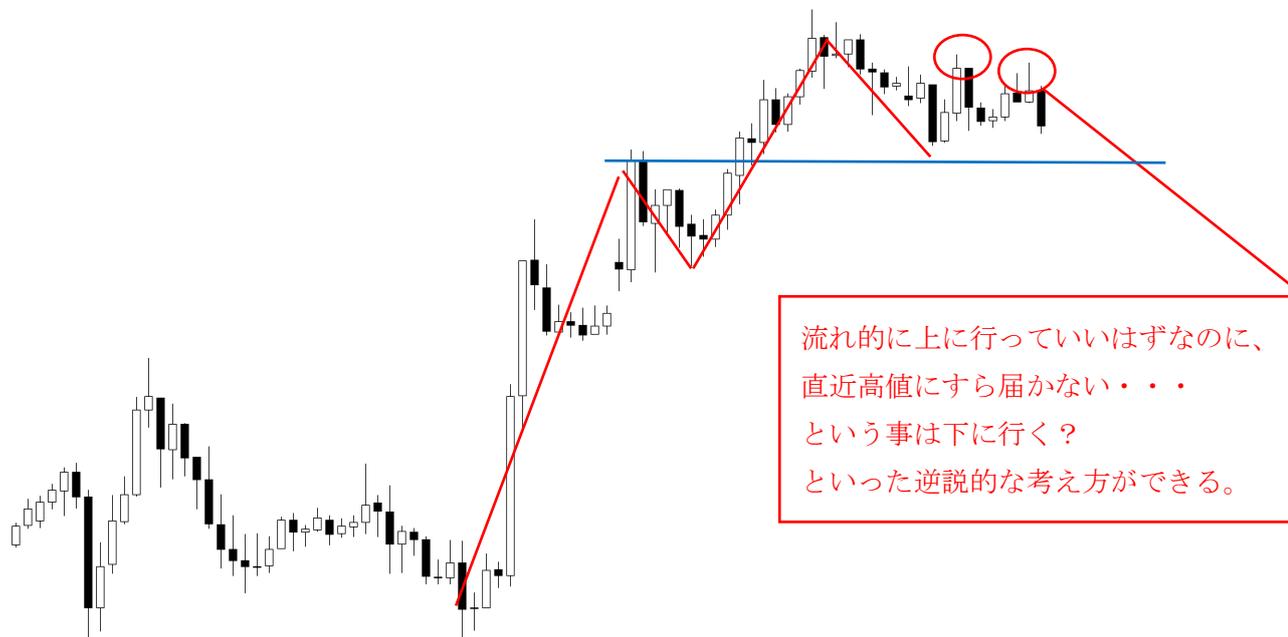
下記画像だとキレイに上昇の流れが出ているのがわかると思います。

その為、チャート右端では青の水平線でサポートされて上昇し始めているので、上に行っていないはず！と決め付けたとします。



しかし、その後のチャートの動きを見ると、1つ目の赤マルの高値から下落して、再度反発するも、1つ目の赤マルにすら届かず下げ始めました。(2つ目の赤マル)

この時点で、「流れ的に上に行ってもいいはずなのに上に行けない・・・という事は下に行くのでは？」
「であれば、買っている人達が諦めて一斉に利食いしてくる可能性が高い。じゃあ青の水平線を割ったら売ってみよう」という逆説的な戦略を立てることができます。



そして、この状態からその後のチャートの動きを見てみると、次ページのような動きになりました。

結果的に下記画像のように、**上に行ってもいいのに行かなかった**ので、買いポジションを持っている人達が、「上に行ってもいいはずなのにいかないから一旦利食いしておくか」と判断して利食いをしてきた為、下落しました。



このように、

「〇〇なはずなのに、そうならないという事は逆の動きになる可能性が高い」

という逆説的な考えを持つ事で、
大多数の相場参加者の考えを逆手に取ったエントリーをする事ができます。

このような考え方ができるようになると、上昇トレンド中(下落トレンド中)でポジションが一方向に溜まっている場合や、強いサポートラインなど、逆に動いたらみんなが一斉に逃げてくるような場所で、逆のポジションを取れるので、大きな下落や上昇をとらえて、短時間で大きな利益をとる事ができるようになります。

これも大衆心理をしっかり理解していれば、起こるべくして起きた動きだとわかるはずです。

ただし、この逆説的なローソク足の考え方は、上級者向けなので、まずはしっかり流れを見て、「今は〇〇な流れなのでこの後の動きは〇〇になってもいいはず」というローソク足の見方から練習していきましょう。

上記のような感じで、
チャート画像を出しながら、
大衆心理の考え方について詳しく説明していきます。

因みに、これ以降の項目は以下になります。

ローソク足の意味を一連の流れから理解する.....	15
トレンド転換をする場所とその大衆心理.....	21
大衆心理から考える効果的な水平線の引き方.....	39
大衆心理を使ってエントリー精度を上げる方法 1.....	51
大衆心理を使ってエントリー精度を上げる方法 2.....	59
大衆心理を使って負けやすいエントリーを防ぐ.....	64
大衆心理を使った損切り方法と利食い方法.....	68
大衆心理を使った損切り方法.....	69
損切り後すぐに反転しやすいパターン.....	84
大衆心理を使った利食い方法.....	93
実際のエントリーから利食いまでの流れ.....	105
全体の相場の流れから考えるトレード戦略.....	116
トレードをすべきでない場所.....	158
反応しやすい押し目・戻し目を大衆心理から考える.....	171
大衆心理を使ったトレード手法.....	186
終わりに.....	240

また、本教材には、PDF ファイルに加えて、
大衆心理訓練用画像が 20 パターン付いてきます。

もし、あなたにとって有益だと感じた際は
購入を検討していただければと思います。

ここまで読んでいただきありがとうございました。

教材は以下のリンクから購入する事ができます。

<https://www.gogojungle.co.jp/tools/ebooks/15914>